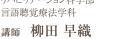
私の学生時代

リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科



私は本学言語聴覚療法学科を2007年 に卒業しました。学部生時代のことを書こう かとも思ったのですが、こちらでは学生時 代で一番充実していて思い入れのある博 士課程の学生時代を振り返りたいと思いま す。私が北海道大学大学院医学研究科 に入学した2014年頃は、ちょうど私の研究 テーマでもある「痙攣性発声障害」に関す る臨床研究が立て続けに実施され、ご指 導をいただいていた西澤典子教授(本学 リハビリテーション科学部)から「今、この波 に乗らないと!」と強く後押しされ、受験を決

意しました。入学1年目は既定単 位数の修得に追われる日々で、 夜間開講される科目を優先的に 選択した結果、泌尿器科の病

棟へお邪魔するなど貴重な体 験ができました。

入学と同時に、福田諭北大 名誉教授から「週1回は外来に も出るように」とご指導いただき 北大耳鼻科の音声外来への 参加がきっかけとなり、外科的 治療が必要な音声障害を含め たあらゆる音声障害の臨床に 関わるようになりました。さらに痙 攀性発声障害に関する治験が

北大病院で実施されていたことから音声 評価を担当したり、手術室へ入って患者さ んに手が届くほどの至近距離で実際の手 術手技を見学する機会を頂き、溝口兼司 先生と畠山博充先生には大変感謝してい ます。また、フィリピンから1年間研修に来て いたMilabelle Lingan医師との思い出も とても心に残っています。彼女はいつも私



2014年当時の北大耳鼻科音声外来のメンバー、左から2番目が私。

のつたない英語を熱心に聞いてくれ、学問 的な話から他愛もないことまで外来や医局 でたくさん話しました。あれから5年近く経ち ますが今でも日本で災害が起こるたびに 心配して連絡をくれたり、お互いの近況を 報告したりと交流が続いています。学位の 取得にあたり、北大耳鼻科医局員の先生 方、秘書さん、そして何より論文指導をいた

> だいた本間明宏教授には感謝し かありません。この経験を通じて 得られた恩師たちとのご縁や経 験をこれからも大切にしていきた いと思っています。

私の 生時

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、 学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。 今回は柳田早織講師と近藤啓講師のお二人に、 当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

医療技術学部 臨床検査学科 講師 近藤 啓

白衣を着て、試験管を振って、理科の実 験みたいでおもしろそう、そんな適当とも思 える動機で入学したのは、西野学園札幌 医学技術福祉専門学校の臨床検査技師 科でした。

専門学校は朝から夕方までびっしりと授業 が組み込まれ、特に、1年生の時は座学がほ とんどのため、高校生活とあまり変わらない感



数少ないライブの時の写真。 本来はドラムなんですが…右から2人目が私です。

じでした。2年生になると学内実習が始まり、 採血実習で採取した自分の血液を使って生 化学検査や血液検査の実習、細菌培養、病 理組織標本の作製、心電図をはじめとする生 理検査などなどさまざまな学内実習をグルー プの仲間とワイワイ楽しくやっていましたが、 その後のレポート書きがとにかく苦手でした。

学校の向かいには名物のお寿司屋さんが あり、お昼は学生用に500円メニューを用意し てくれていて、生ちらしや鉄火丼、天丼など、 どんなに大盛りにしてもお値段据え置きで、 大食いの学生時代には非常に助かりました。 今より贅沢なランチを食べていましたね…。

学校以外では遊んでばかりの記憶しか ありません。友達の4畳半の部屋に10人ぐら い集まり、安い焼酎で宅飲みしたり、徹夜で 桃鉄やったり、友達とバンドを組んでスタジ オで音を鳴らしたり、温泉旅行に行ったり、 お花見でバーベキューしたり…今考えると 仲間に恵まれた学生時代でした。

3年生になるとさすがに遊んでばかりはいら



病院実習での一コマ。人生で一番痩せている時ですね。

れません。病院での臨床実習が始まります。 4月から夏の終わりまでの長期実習であった と思います。私は、国立札幌病院(現北海道 がんセンター)の臨床検査科でお世話になり ました。そこでの諸先輩方の指導を受けなが ら現場での臨床検査を学び、同時に人に 教えるということにも興味を抱きました。

専門学校を卒業後、札幌医科大学附属 病院に就職し、病理検査をはじめとするさま ざまな検査業務を経験し、病院実習にくる学 生の指導にも携わることができました。就職し てから5年が過ぎたころに、社会人大学院制 度を利用し札幌医科大学大学院医学研究 科に入学、働きながら4年間の大学院生活を 送ることになります。毎日、日中は臨床検査業 務をこなし、夜は研究業務を行いました。朝ま で実験をし、そのまま仕事を行う日もありまし た。正直、辛い日々ではありましたが、あの時 があって今があるのをとても実感しています。